

せかいと手をつなごう

赤根 さち子

横浜市立川和東小学校

◆実践教科：生活科・道徳・音楽

◆時間数：4時間

◆対象学年：小学2年生

◆対象人数：180名

カリキュラム

<実践の目的>

- ・ ウガンダの子どもたちの生活を通して世界を知る。
- ・ 歌や暮らしなど身近なところからウガンダという国について知り、暮らしている人々、子どもたちに親しみを持つ。自分たちと同じところや、似ているところ、異なるところに気づくことにより、日本とは異なる文化、異なった状況にいる子どもたちのことを考え、自分の生活を振り返る。

授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 (生活)	「ウガンダって知ってる？」 ウガンダについて知り、興味・関心を持つ。	<ul style="list-style-type: none">・ 世界地図でウガンダの位置を調べる。・ 国旗、写真を見て、ウガンダについて知る。・ ウガンダについて、知りたいこと、調べてきてほしいことを、カードに書く。	<ul style="list-style-type: none">・ 世界地図・ 国旗、写真
2 (道徳)	「ウガンダものしり博士になろう！」 ウガンダの生活、文化に親しむ。	<ul style="list-style-type: none">・ 持ち帰った品物や写真をもとに、クイズをする。・ 文字、あいさつ、数、通貨などについて知る。	<ul style="list-style-type: none">・ 研修で収集した雑貨、写真、パワーポイント、プロジェクター
3. (音楽)	「歌でともだちの輪を広げよう」 ウガンダのあいさつや数の数え方を知り、楽しく歌う。	<ul style="list-style-type: none">・ 音楽の教材「みんなで1・2・3」を、様々な国の言葉やルガンダ語で歌う。・ ウガンダで行った、歌遊びの様子を見る。	<ul style="list-style-type: none">・ 音楽教科書教材「みんなで1・2・3」・ 写真、動画資料、パワーポイント、プロジェクター
4. (生活)	「世界の友だちと手をつなごう」 ウガンダの学校の様子、子どもの生活について知る。	<ul style="list-style-type: none">・ ウガンダ風景写真、学校での授業の様子を見て、気付いたことや、疑問について話し合う。・ ウガンダの子どもたちの生活の様子を知り、自分の生活とくらべてみる。・ 絵本「アフリカの音」の朗読を聞く。	<ul style="list-style-type: none">・ 写真、動画資料、パワーポイント、プロジェクター

授業の詳細

1時間目：「ウガンダって知ってる？」

本時目標：ウガンダについて知り、興味・関心を持つ。

研修でウガンダに行くこと、ウガンダの小学校で音楽や図工の交流授業をすることを話した。小学校2年生は、世界の地理についての知識自体、よく理解できていない段階である。学級には海外旅行、海外滞在経験のある児童もいるが、アフリカに行ったことはなく、知識もほとんどない状態だった。アフリカに行ったことがあるかどうかを尋ねると、「グアムに行った」という答えが返ってくる。最初の学習課題は知ること、そして興味を持つことであると感じた。

世界地図でウガンダの位置を調べたり、国旗を掲示したりして、主食がバナナであることなど事前研修で知ったことを話すと、児童は強い興味を持った様子だった。ウガンダについて、知りたいこと、調べてきてほしいことを、カードに書かせると、「どんな言葉を話しているのかな」「どんなお金をつかっているのかな」「服装はどんな様子かな」「キャラクターはあるのかな」「数字は、どんな数え方をしますか」「学校は大きいですか」「家は、どういう家ですか」などの疑問が出た。

2時間目：「ウガンダものしり博士になろう！」

本時目標：ウガンダの生活、文化に親しむ。

① ウガンダの場所を確かめる。

海外研修の後、初めての授業だったので、改めてウガンダに行ってきたことや、これからウガンダについての学習をすることを話し、世界地図でウガンダの位置を確かめた。



授業風景

② クイズによってウガンダを知る。(パワーポイント、プロジェクター、写真資料)

研修で収拾した写真を使い、ウガンダについてのクイズを行った。

- ・ウガンダの国旗はどれでしょう？(三択クイズ、アメリカとブラジルの国旗)
- ・ウガンダの主食はバナナである。○か、×か。
- ・これは、何だろう？(バナナの花、サトウキビ、お茶畑など)



使用した資料 (一部抜粋)

児童の反応：食べ物については特に強い興味を示し、主食がバナナだということに驚いていた。

③ もっと知りたいこと、不思議に思ったことについて発表した。

「どんな服を着ているのかな」「どんな動物がいるのかな」「学校の様子について知りたい」「どんな消しゴムを使っているのかな」

3時間目：「歌でともだちの輪を広げよう」

本時目標：ウガンダのあいさつや数の数え方を知り、楽しく歌う。

- ① ウガンダ語であいさつをする。
「オシベムチャ ウェバレニヨ ウェラバ」

ウガンダのあいさつ

オシベ・ムチャ（こんにちは）
ウェバレ ニヨ（ありがとう）
ウェラバ（さようなら）

みんなでいってみよう！

みんなであうたおう！

トウインベ・フェナ

みんなでおどろう！

トウジネ・フェナ

使用した資料（一部抜粋）

- ② 前回の授業を想起する。
前回の授業の中ででた子どもたちの質問について、ウガンダの風景や動物の写真を提示しながら答えた。また、ウガンダで訪問した野生動物保護センターと横浜市にある動物園ズーラシアとの関連を説明したり、ネリカ米の認定書を見せ、専門家の坪井さんの活動について説明した。
- ③ ウガンダの衣装について学ぶ（パワーポイント、プロジェクター、写真資料）
「きれいな服を着ている人が多かったです」と説明するとともに、実際にウガンダの衣装を紹介した。

ウガンダのふくそう どちらがたしい？

- ①あついで、上にはなにも
きていない。
②男の人は、シャツとズボン
女の人は、スカートやドレス



使用した資料（一部抜粋）

- ④ 音楽の教材「みんなで1・2・3」を、様々な国の言葉やルガンダ語で歌う。
⑤ ウガンダの小学校で行った交流授業（沖縄歌遊び）を撮影したDVDを鑑賞する。
⑥ 沖縄歌遊び「ていーちでいーる」を歌って踊る。

- ⑦ ウガンダの楽器を触ってみる。(ウガンダで購入した楽器、太鼓)
「みんなで123」を歌いながら、リズム楽器、太鼓を演奏する。



ウガンダでの交流授業風景



授業風景

4時間目：「世界の友だちと手をつなごう」

本時目標：ウガンダの学校の様子、子どもの生活について知る。

- ① ○×クイズからウガンダの学校について学ぶ (パワーポイント、プロジェクター、写真資料)
- ・学校では、英語で勉強をしている。
 - ・ウガンダの学校では、赤や青、ピンク色の制服を着ている。



使用した資料 (一部抜粋)

ウガンダの小学校では英語で学習をしていることなどを知って、児童は驚いていた。英語活動の学習が始まったところだったので、「ウガンダの小学校のお友だちも、英語の勉強をしているんだ」と親しみを持った様子だった。「英語のお勉強をしている」のではなく、「英語で学習をしている」のだということも説明したが、自分たちの学校生活と状況が違いすぎて、理解することが難しいようだった。

- ② ウガンダの小学校での交流授業の様子を見る。(DVD、プロジェクター、動画資料)
ルコメラ小学校での交流授業の様子、教室の様子を見て、ウガンダの子どもたちの演奏する音楽を鑑賞した。
- ③ 感想を発表する。メッセージを書く。
ンサオ小学校で頂いたマフラーを見せたり、バックレー小学校からのメッセージを聞いた後、学習した感想、日本と違っていたところ、同じだと思ったことを発表した。また、ウガンダのお友だちにメッセージを書いた。



ウガンダの子どもたちのダンス



授業風景

④ 絵本「アフリカの音」の朗読を聞く。

「アフリカの音」(沢田としき 講談社)の読み聞かせを行った。この本の舞台は西アフリカで、楽器や衣装、自然の様子がウガンダとは少し違うことを説明した。

子どもたちからの感想、メッセージ

- ウガンダのことがいろいろ分かった
- 楽器がすごかった。
- 車が日本の(トヨタとかニッサン)がいくつもあってびっくりした。
- ウガンダにもみんながあるところは日本と同じだと思った。
- ウガンダにも大きいビルがあるところが同じだと思った。
- 一年中ずしいんだなということがわかった。
- ウガンダの人は、はだの色が黒いところが日本とちがっていた。
- こしをふっておどるのがとてもはやくてすごいとおもいました。
- お手紙ありがとうございました。いろいろなことがわかったよ。ナイル川ってきれいだね。いちどウガンダにいつてみたいな。
- 日本のおりがみはたのしかったですか?おどりやうた、うまかったですね。
- ウガンダのことをいっぱいおしえてね! 日本にきたら、日本のこともいっぱいおしえるね!

成果と課題

今回の授業実践では、ウガンダの人々の生活を通して、世界に目を向けること、今後さらに興味をもって、様々な国の様子を知ろうとする態度を育てることを目的に取り組んだ。

単に知識を得るに留まらず、問題意識や課題意識にまで深められないだろうかという思いもあり、「せかいがもし100人の村だったら」を紹介して話し合うことも考えていた。しかし、経済格差や、日本の物質的な豊かさとの対比を表層的に捉えて、「ウガンダの子はかわいそう」「日本に生まれてよかった」と考えてしまう恐れがあり、それは避けたかった。事前の研修会で話し合ったときにその点を指摘され、「知ること、興味を持つこと」に焦点を絞ることにした。児童の実態や、授業時間数が限られていることを考えると、2年生の段階としてはこれが適当であったように思う。

なにより世界に目を向け、視野を広げることができた。知りたいという意欲をもてたことが成果

であった。保護者からも「テレビでアフリカのことが放映されていると、とても興味を持って見ている」「ウガンダについての授業を楽しみにしている」といった声が寄せられた。

研修前の授業計画では、担任している1クラスでの授業の予定だったが、2年生全員、5クラスに授業を行うことになった。クラス数が多い分、授業時間の調整が難しくなり、当初の計画よりも時数を縮小せざるを得なかったが、そのぶん研修の成果をより多くの児童に広げることができた。

以下、2学年の先生の感想：

「ウガンダの写真をを見せていただきながら、子どもたちも参加できるように、クイズ形式で赤根先生が上手に進めてくださった。子どもたちも私たち教師もウガンダという国の様子が赤根先生のお話で分かり、ウガンダという国に親近感を持つことができた。ありがとうございました！という感謝の気持ちで一杯です。ウガンダの風景、ウガンダの挨拶、いろいろな言葉があるので公用語が英語であること、服装、子供たちの様子などを垣間見ることができました。また、ウガンダの服も、赤根先生と見に来てくださった先生が実際に来て下さったのも、子どもたちはとても喜んでいました。アフリカの中の国で、暑いと思っていましたが、気温はさほど高くなく、緑が多く、牛がのんびり歩いているような、のんびりした素敵な国だということも分かりました。」

授業以外の取り組みとしては、学校全体の行事として「ワールドウィーク」という国際理解教育の行事を行った。ウガンダの小学校から頂いてきたマフラーや、児童のメッセージ、民族衣装や楽器などを展示したが、好奇心を持って見入っている児童も多く、興味を喚起できたのではないかと思う。



ワールドウィーク展示